

株式会社JCU
証券コード：4975



CONTENTS

目で見る連結決算ハイライト	1
セグメント別業績概況	2
株主・投資家の皆様へ	3
特集 女性管理職座談会	5
女性社員がより活躍できる 職場づくりへ	
連結財務諸表	8
株式の概況 / 会社概要	9

JCU REPORT

株主・投資家の皆様へ

第57期

中間報告書

(2016.4.1 ●●● 2016.9.30)

目で見る連結決算ハイライト (第57期中間)

売上高

10,514百万円

前年同期比5.9%増



営業利益

2,574百万円

前年同期比9.5%増



経常利益

2,283百万円

前年同期比4.3%減



親会社株主に帰属する四半期純利益

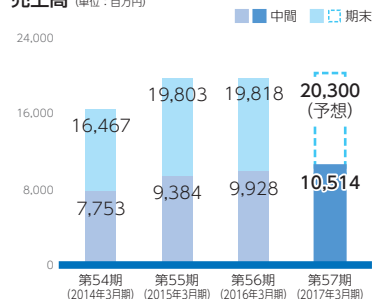
1,682百万円

前年同期比4.8%増

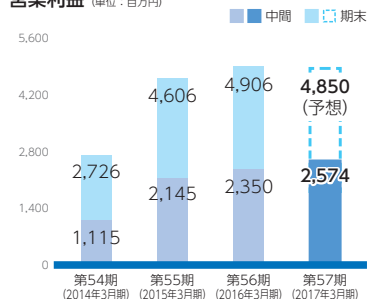


財務ハイライト(連結)

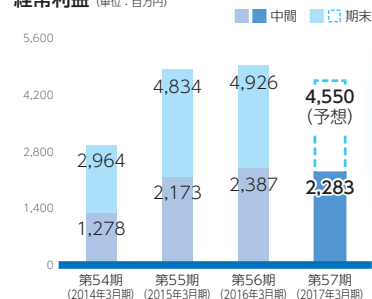
売上高 (単位:百万円)



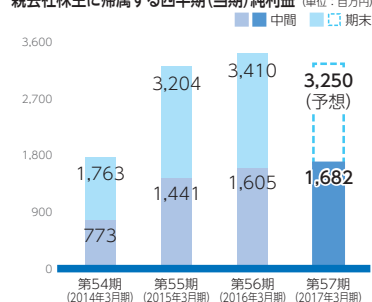
営業利益 (単位:百万円)



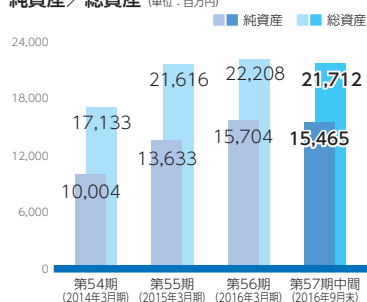
経常利益 (単位:百万円)



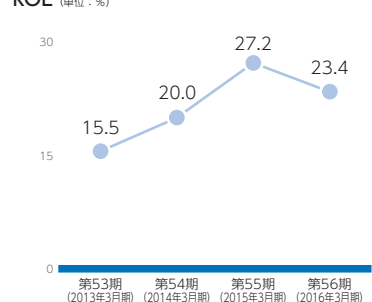
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (単位:百万円)



純資産/総資産 (単位:百万円)



ROE (単位:%)



装置事業

16.1%

新規事業

8.9%

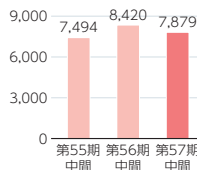
セグメント別 業績概況

薬品事業

75.0%

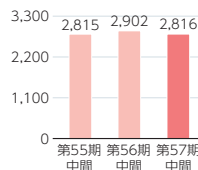
薬品事業

■売上高 (単位: 百万円)



売上高
7,879
百万円
前年同期比
6.4%減

■セグメント利益 (単位: 百万円)



セグメント利益
2,816
百万円
前年同期比
3.0%減

当社薬品使用例



自動車部品

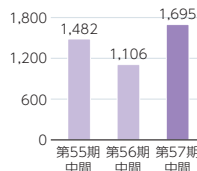


プリント配線板

薬品事業におきましては、ハイエンドスマートフォン向けの需要が底堅く堅調に推移したため、中国、台湾、韓国におけるプリント配線板用めっき薬品の販売が順調に推移しました。また、中国においては小型車減税による需要の増加と新規ライン獲得が貢献し、自動車用めっき薬品販売は堅調に推移しました。一方で、円高の影響を強く受けた結果、売上高は7,879百万円(前年同期比6.4%減)、セグメント利益は2,816百万円(前年同期比3.0%減)となりました。

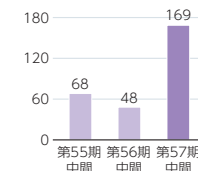
装置事業

■売上高 (単位: 百万円)



売上高
1,695
百万円
前年同期比
53.3%増

■セグメント利益 (単位: 百万円)



セグメント利益
169
百万円
前年同期比
247.0%増

製品一例

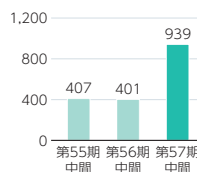


全自動表面処理装置

装置事業の受注高は、日本、メキシコにおいて大型めっき装置の受注を獲得したことにより、1,710百万円(前年同期比174.9%増)と大幅に増加となりました。また売上高も、日本の大型めっき装置の引渡しが完了したこと等もあり1,695百万円(前年同期比53.3%増)と大幅に増加となりました。この結果、セグメント利益は169百万円(前年同期比247.0%増)となりました。

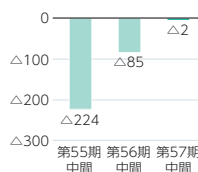
新規事業

■売上高 (単位: 百万円)



売上高
939
百万円
前年同期比
134.0%増

■セグメント利益 (単位: 百万円)



セグメント損失
2
百万円

新規事業一例



太陽光発電装置

新規事業の受注高は、日本、海外におけるプラズマ装置の受注はありましたが、前年同期に受注した太陽光発電設備のような大型物件の受注がなかったため222百万円(前年同期比63.8%減)となりました。売上高は、プラズマ装置の引渡しが順調に推移したことにより、939百万円(前年同期比134.0%増)となりました。セグメント損失は2百万円(前年同期はセグメント損失85百万円)と前年同期と比べ大幅に減少しました。

(注) 第57期第1四半期連結会計期間より、組織変更に伴い、従来「新規事業」に含まれていた貴金属めっき薬品及び新機能コーティング材について「薬品事業」へ含めて表示しております。なお、第56期第2四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

体力の強化、温存と将来への布石

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

第57期上半期の業績と下半期の展望、そして今後の経営方針についてご報告いたします。

第57期上半期の業績と下半期の展望

第57期上半期(2016年4月1日から2016年9月30日まで)は、年初から続く円高の中スタートし、海外売上の高比重が高い当社にとって非常に厳しい環境での経営になるとの心積もりでした。業績予想におきましても、為替の影響を考慮せざるを得ず、これまでとは一転した厳しい内容を発表いたしました。

そこで当社は、利益の根幹である薬品の売上において、出荷数量を増やすという実質的な成長を重視し、社員全体がひとつの目標を持って努力した結果、予想を上回り、また前年同期の実績も上回ることができ、後半に向けて新たな目標を立てることができました。

上半期の内訳は、売上高105億14百万円(前年同期比5.9%増)、営業利益25億74百万円(同9.5%増)、経常利益22億83百万円(同4.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益16億82百万円(同4.8%増)でした。この結果、中間期の配当は前年の記念配当10円を普通配当に組み入れ1株当たり60円といたしました。

当社の主力でありますスマートフォンを中心としたプリント基板市場の動きは、最大の市場である中国の動向に左右されます。中国では既に4Gの時代になり、ハイエンドスマー

トフォンはアメリカと韓国のメーカーが占めており、中国系をはじめとするミドルレンジスマートフォンの市場が急拡大しています。ハイエンド向けの市場での当社薬品シェアはほぼ独占しており、ミドルレンジの囲い込みが当社の成長の鍵になっております。幸い当社のユーザーはその市場においても強みを発揮しており、下半期に向けても明るい見通しを持っております。また、ハイエンドスマートフォンの新機種に使用されるフレキシブル基板に対し、プラズマ洗浄装置とめっき装置を大量に受注し、業績アップにつなげることができました。

一方の自動車を中心としたプラスチック上へのめっき向けの動向ですが、特に装置販売が好調に推移したことにより業績に貢献しました。このように、経営環境は決して順風とはいえない中で、これまで培ってきた技術が力となり、顧客のニーズにタイムリーに応えることによって円高の逆風を何とか凌いでおります。

下半期におきましても、スマートフォン全体の販売台数の増加は今後も継続すると見込んでおりますが、市場構成の変化が価格競争の激化につながり、当社にとって利益の確保が難しくなると考えております。従って、競争力のある新製品の市場投入が急務であると認識しております。

また、もう一方の自動車市場につきましては、中国経済の減速感懸念されるものの世界全体としては安定的な成長市場であり、将来のニーズを見込んだ研究開発を実施しながら、弛まぬ営業努力によって新規顧客の獲得に努めます。

将来の課題と戦略

2016年も残すところ少なくなりましたが、相変わらず世界情勢は混沌としております。中東の混乱と難民問題そしてテロの脅威は続いており、イギリスのEU離脱なども意外な決断でした。混乱はまだ当分続くでしょう。また、円高の流れも当面続くものと判断しており、もはや円安を前提とした経営戦略はありえません。これからが企業の本当の力が問われる時代だと思えます。

このような円高の背景を受けて、当社はより一層の構造改革に取り組む覚悟です。一言で申し上げれば、「体力強化、そして体力を温存して、リスクに備える」ことです。しかし、それだけでは成長はストップします。将来の成長に対しては布石を打つことも重要です。将来に向けて新しい柱を立てることについては貪欲に取り組みます。これからも持続的成長の確保を目指して以下の目的意識をしっかりと持って、業務に邁進したいと存じます。

- 電子分野向けのビアフィリング用銅めっき薬品や自動車を中心とするプラスチック上へのめっき薬品など高シェア製品の販売維持と効率化による利益の確保
- 事業の多角化と再構築により、将来の利益を創出
- 他企業との協業によるグローバル展開を図り、収益を拡大
- コーポレート・ガバナンスの徹底とコンプライアンスの重視

株主・投資家の皆様におかれましては、これまで以上のご愛顧ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役会長 兼 CEO

小澤 恵二

代表取締役社長 兼 COO

君塚 亮一

女性社員がより活躍できる職場づくりへ

国内企業における女性管理職比率が6%台とされる中、当社は比較的高い女性社員比率・女性管理職比率を保持しています*。ここでは4人の女性管理職を集め、当社における女性の活躍状況や、女性が働きやすい職場について話し合ってもらいました。



管理本部総務部総務課
課長 矢部 そのえ(2008年入社)



管理本部人事部設立準備室
担当課長 戸田 淳子(1998年入社)



総合研究所エレクトロニクス技術開発2部
部長 時尾 香苗(1993年入社)



営業本部海外管理部海外管理課
課長 佐藤 幸月(2005年入社)

2016年10月21日、本社会議室にて開催

はじめに女性社員の活躍という観点から、
皆さんそれぞれの職場風景をお聞かせください。

矢部：総務課は今、女性社員5名と男性社員1名の体制です。社内の裏方的な役割であり、きめ細かさが求められる業務なので、女性の活躍機会が多い職場だと思います。男性が一人だけなので、力仕事など男手が必要なときは、他部署の助けを借りることもありますね。課内では、時短勤務制度の利用者は現在いませんが、子供がいる女性社員の負担軽減に協力し合い、仕事を回しています。

戸田：私が仕事をしている人事部設立準備室は、上司と私の2名で今年6月から活動を開始し、1年後を目処に人事部の設立に向けた土台づくりを進めています。総務・人事の立場で社内を見ますと、以前は女性の新卒採用が少数でしたが、研究所への配属を中心に女性社員が増えてきました。私が入社した18年前は、150名弱の社員数のうち女性管理職が2名だけでしたが、今は社員数263名のうち女性管理職が17名と、大きく変化しました。要因としては、やはり育児休業制度の充実と定着が大きいと思います。育休後の復職率もほぼ100%ですし、女性にとって働きやすい職場環境が整ってきたと言えます。

研究部門は特に女性社員が多いんですね。

時尾：当社は、社員全体の約3分の1にあたる105名が総合研究所の人員なのですが、その中で女性は28名、うち技術職としての女性研究員は24名です。大学でも化学系は女子学生が多いですし、私が入社した23年前から女性研究員の比率は高かったです。ただ昔は、結婚・出産に伴う離職が多かったんです。その後、育児休業制度の充実に伴い、長く働く女性研究員が増えてきました。

矢部：新卒採用の会社説明会でも、当社を選んだ理由として「女性が多く離職率も低いので、長く働ける会社だと思った」という研究職希望の女子学生が結構います。

時尾：総合研究所では今、産休・育休取得中の女性が3名、時短勤務制度の利用者が5名いますので、女性社員28名中8名が子育てしながら働く上で、社内制度を活用している状況です。そういう点で働く女性に対して配慮のある職場だと言えるのですが、子育て中の女性社員にもいろいろな考え方があり、仕事を重視している人もいますので、場合によっては配慮し過ぎないことも必要な気がします。

戸田：私も育休中は、自分がまた復職できる居場所があるかという不安を覚えたり、会社から必要とされている実感が欲しいと感じました。育休中の職場とのやり取りや復職については、人によって多様な捉え方があると思います。

海外管理における女性社員の職場風景は いかがですか？

佐藤：私の職場は、当社の薬品を輸出する貿易実務がメインで、他には海外現地法人に対する日本側の窓口として、工場や総合研究所との橋渡しをする役割も負っています。女性社員4名と男性社員1名の体制で、本来は海外現地法人への出張による業務も行いたいのですが、女性社員のうち3



名が子持ちということもあり、実施していません。営業部では、女性社員が1名いて海外にも出張しています。当社は、女性社員に対してやさしい、無理をさせない面があり、現時点では海外現地法人への出向や駐在はないですね。そうした勤務についても本人の事情を十分配慮してくれます。

時尾：女性の海外出張は、むしろ総合研究所の方が技術対応の必要から多いですね。時短勤務制度を利用している子育て中の研究員で、メキシコに2週間出張した人もいます。

佐藤：出産前は私も海外に行きたい方でしたが、今は会社の制度に甘えているところがあります。当社の時短勤務制度はかなり充実しており、子供が3歳になるまでは有給扱いで2時間の短縮、3歳から就学までは1時間有給で1時間無給の短縮が可能です。小学校に入ってからも、無給であれば1時間の短縮が認められます。

女性管理職としての立場から、 働きやすい職場づくりや多様な働き方について、 どのように考えていますか？

矢部：時短勤務への配慮も含め、定時で業務を終えて帰宅できるように、仕事をフォローし合ったりするチームワークが必要だと考えます。また先日セミナーで、女性がマルチタスクを得意とするのに対し、男性は特定業務への集中

が得意という話を聞いたのですが、そうした性別によって異なる仕事の仕方なども、職場に活かしたいですね。

戸田：私自身の会社生活は、上司をはじめ多くの人に支えられてきたのですが、人によっては、描いたキャリアプラン通りにいかない部分や、出産など女性特有のライフイベントとの両立が難しい局面もあるので、そうした女性社員が働き続けることができる職場環境を実現したいですし、相談に乗っていきたいと思っています。



時尾：当社の女性管理職は自分が初めてだったので、いろいろ手探りで試行錯誤した部分も多く、その中で女性ができることは何かということを考えながら、職場づくりに取り組んできました。矢部さんが言ったような女性脳・男性脳の違いというのは確かにあり、男女それぞれ気付く部分・気付かない部分を念頭に置いて、職場改善に活かしたり、研究開発面でも男女の発想の違いを融和させていく取り組みが大切なのではないかと考えています。

佐藤：私がいる職場は、定時で業務を終えて帰宅しやすい状況なのですが、支店など人員の少ない職場では、女性社員の負担が大きいところもあると思います。海外拠点でも女性社員の活躍は総務・経理関係が中心だったりしますが、そうした女性社員には優秀な人が多いので、出産や育児が理由で長く働けずに退職してしまうケースは、もったいな

いと感じますね。また一方で、男性社員にとって時短勤務や育休というのは、まだまだ取得しにくいといった問題もあります。

矢部：女性が職場で活躍するには、配偶者や家族の助けが不可欠ですから、そうした人たちの立場も考えた仕組みづくりを考えていく必要がありますね。

最後に、座談会を通じて感じたことをお聞かせください。

佐藤：今年で入社11年目になるのですが、こうして皆さんの話を聞きながら、会社がだいぶ変化してきたことをあらためて認識しました。かつては女性社員への遠慮から、会議に呼ばれないといったこともあったのですが、今の社内では、女性社員が男性と同じく必要とされていますし、女性社員の側にも積極性が求められていると思います。

時尾：こういう話ができる機会を得て、とても嬉しいです。今までなかったことですから。今後、こうした女性による話し合いの場を設けて、女性社員から会社への提案ができるようになったらいいなと思いました。

戸田：私も今回、はじめて女性だけの座談会に参加し、皆さんの考えに接する機会を得たことを有意義に感じています。人事部設立準備室というのは、当然ながら女性の活躍推進に携わっていく部署ですし、その先は男女平等で、優れた人が能力を発揮できる職場環境づくりにつながっていくと考えています。それが会社の成長をもたらすことを意識して、これからも取り組んでいきたいですね。

矢部：管理部門として、今後もっと女性社員が活躍できる職場づくりに努めるとともに、女性社員一人ひとりにも「自分が将来どうありたいか」という自覚を持たせ、それに向けた成長を促していくことも必要だと感じています。

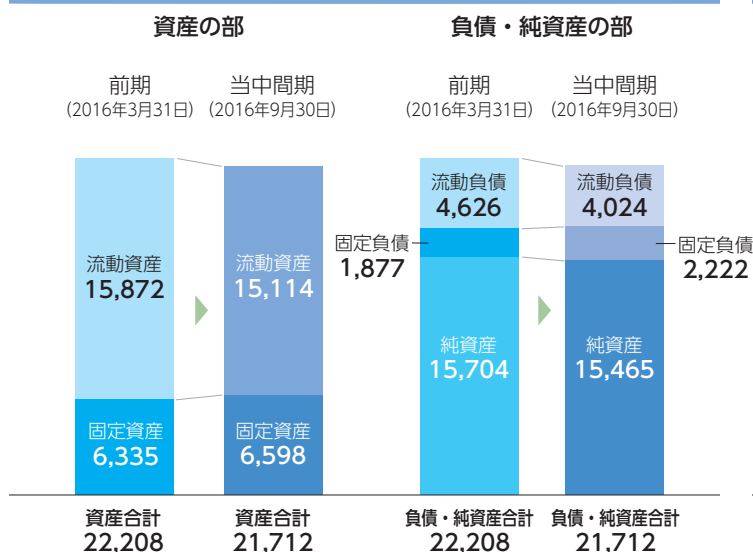
連結財務諸表

▶ 詳細な財務情報は、当社IRサイトよりご覧いただけます。

<http://www.jcu-i.com/ir/index.html>

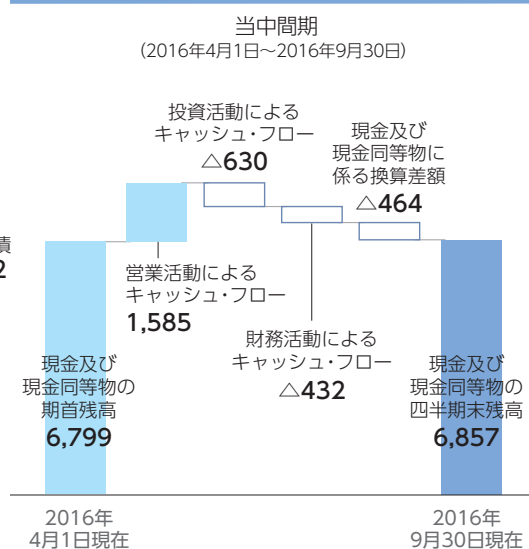
連結貸借対照表

(単位:百万円)



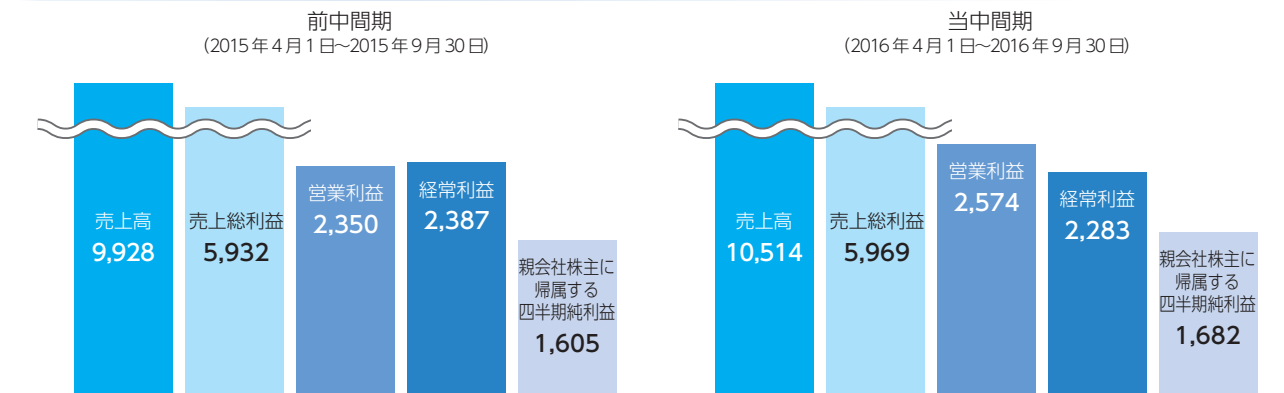
連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)



連結損益計算書

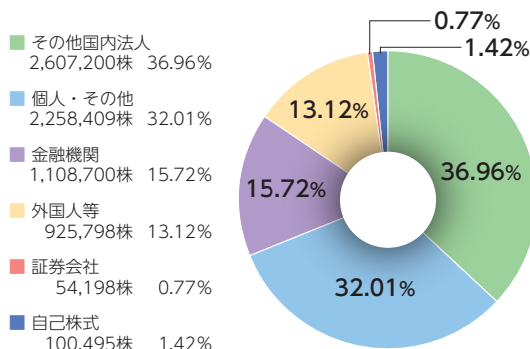
(単位:百万円)



株式の状況

発行済株式総数…………… 7,054,800株
株主数…………… 5,850名

所有者別株式分布状況



大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	374,700	5.38
日本パーライジング株式会社	227,000	3.26
日本高純度化学株式会社	220,000	3.16
荏原実業株式会社	200,000	2.87
株式会社スレイ	200,000	2.87
日本化学産業株式会社	186,000	2.67
JP MORGAN CHASE BANK 380634	184,800	2.65
神谷理研株式会社	160,000	2.30
栄電子工業株式会社	160,000	2.30
株式会社ファルテック	158,600	2.28

(注) 持株比率は自己株式(100,495株)を控除して計算しております。

商号 株式会社JCU(2012年10月1日より)
本社所在地 東京都台東区東上野四丁目8番1号 TIXTOWER UENO 16階
設立 1968年(昭和43年)4月1日
資本金 1,176,255,128円

事業所 ■ 国内
総合研究所 生産本部 大阪支店 名古屋支店 九州営業所
■ 主要な連結子会社
JCU(上海)貿易有限公司
JCU (THAILAND) CO., LTD.
台湾JCU股份有限公司
JCU KOREA CORPORATION
JCU VIETNAM CORPORATION
JCU(深圳)貿易有限公司
PT. JCU Indonesia
JCU科技(深圳)有限公司
JCU(北京)貿易有限公司
JCU AMERICA, S.A. DE C.V.(メキシコ)
JCU INTERNATIONAL, INC. (アメリカ)
JCU CHEMICALS INDIA PVT. LTD.
櫻麓泉(上海)国際貿易有限公司

役員一覧

代表取締役会長兼CEO	小澤	二
代表取締役社長兼COO	君塚	亮
専務取締役専務執行役員	小林	幹
常務取締役常務執行役員	林	伸
常務取締役常務執行役員	大森	晃
常務取締役常務執行役員	新木	隆
取締役常務執行役員	村本	昌
取締役常務執行役員	松野	順
取締役常務執行役員	縄舟	一
社外取締役	高	秀
社外取締役	中	正
社外取締役	澤	隆
社外取締役	伴	司
社外取締役	井川	夫
社外取締役	高市	治
社外取締役	井川	久
社外取締役	秋原	徳
社外取締役	谷	志
社外取締役	木	一
社外取締役	鈴木	豊
社外取締役	林	文
社外取締役	今井	彦
社外取締役	池	一
社外取締役	側	文
社外取締役	側	浩

従業員数 連結538名(15名) 単体263名(15名)

(注) 臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含みます。)(注)は、年間の平均人員を()外数で記載しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告 (http://www.jcu-i.com/) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話 お問合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続 お取扱店 (住所変更、 株主配当金受 取り方法の変更等)	お取引の証券会社等になります。	みずほ証券 本店及び全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)でもお取扱いたします。 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 *トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

ホームページのご案内

ホームページでは、当社の企業情報をはじめ事業情報や、株主・投資家の皆様向けの情報として、決算発表資料等を適時掲載しております。



トップページ



IRページ

J C U

検索

<http://www.jcu-i.com/>

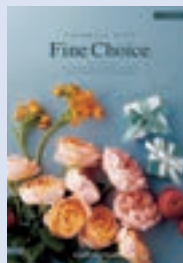
株 主 ひ ろ ば

株主優待について

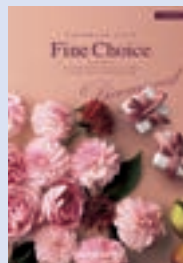
当社の株主優待品は
3月31日現在
単元株以上保有の株主様へ
右記のとおり、「ギフトカタログ」を
お届けいたしております。



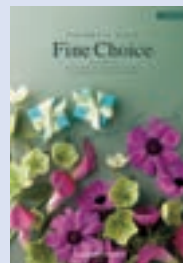
100株以上200株未満
2,500円相当の品
アクアマリン



200株以上1,000株未満
5,000円相当の品
クリスタル



1,000株以上2,000株未満
10,000円相当の品
ダイヤモンド



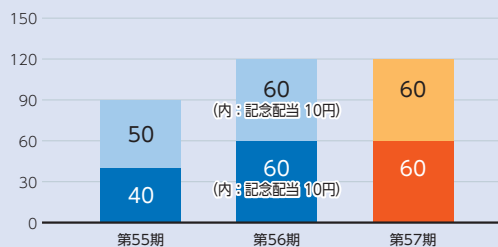
2,000株以上
15,000円相当の品
ラピスラズリ

株主還元について

利益配分に関する基本方針

当社は、将来の事業展開と経営体質の強化のために適正な自己資本比率を維持しつつ、業績の状況に応じて配当性向等を勘案し、安定した配当を実施することを基本方針としております。内部留保資金の用途につきましては、今後の事業活動並びに経営基盤の強化に有効活用していく方針であります。

配当金 (円) ■ 期末 ■ 中間



※第55期の期中(2014年10月1日付)に普通株式1株につき2株の割合を持って株式分割を行っております。第55期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり配当金を算定しております。



株式会社 JCU

〒110-0015 東京都台東区東上野四丁目8番1号
TIXTOWER UENO 16階
TEL: 03-6895-7001 FAX: 03-6895-7021
<http://www.jcu-i.com/>

